

## 1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度（和暦）	28	年度	②採択期間 (通常A型は5年間、B型は3年間)	5	年間 (1年未満は切上げ)	③事業の型 (AまたはBを記入)	A	型
④日本側拠点機関名（和文）	京都大学大学院医学研究科							
⑤コーディネーター部局名・職名・氏名（和文）	医学研究科・教授・武田 俊一							
⑥日本側協力機関名（和文）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）	京都大学大学院薬学研究科							
	京都大学大学院情報学研究科							
	国立研究開発法人 理化学研究所							

⑦参加研究者数内訳 (重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	5	16	0	17	0	38	0
協力機関・協力研究者	3	9	2	9	0	23	0
合計	8	25	2	26	0	61	0

(8)手引2-4記載の参加資格のない者の内訳（適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）

所属・職	専門分野	研究交流での役割
該当なし		

(9)「第三国所属の研究者」内訳（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）

所属機関所在国・ 所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	日本側参加者として一体的な協力体制を 確保する方法
該当なし			

## 2. 経費

事業の型		A 型	
①当該年度の本事業による経費の支出			
経費内訳		金額 (単位:円)	備考
研究交流経費	国内旅費※1	239,080	
	外国旅費※1	9,858,371	
	謝金	0	
	備品・消耗品購入費	788,420	
	その他経費	659,251	
	不課税取引・非課税取引に係る消費税※2	1,054,878	
	計	12,600,000	
業務委託手数料		1,260,000	研究交流経費の10%（1円未満切捨）。消費税額は内額とする。
合計		13,860,000	

※1 「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税・非課税（免税）の区分に応じ対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費（総額）の30%に相当する額を超える各経費目の増減があった場合の説明事由（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）			
(3) 日本側参加研究者による旅費	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本である者の旅費の総額（単位：千円）		10,097
	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本以外である者の旅費の総額（単位：千円）	日本→日本以外の渡航	0
		日本以外→日本の渡航	0
		日本以外→日本以外の渡航	0
(4) 単位：千円未満切捨てによる旅経費の総額	日本または相手国→日本の渡航	該当なし	(左記のうち、研究者の旅費の相手国の所属の総額にて)
	日本又は相手国→相手国の渡航		
	日本または相手国→第三国の渡航		
	第三国→日本の渡航		
	第三国→相手国の渡航		
	第三国→第三国の渡航		

※旅費は、往復の金額で記載すること（例：第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国）の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載）。

経由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤ (B型のみ) 中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合（交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）		
総額（単位：千円）	手引2-6記載の要件を満たす旨の事由説明	
該当なし		
⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費)（単位：千円、千円未満切捨て）		
全相手国マッチングファンド総額	相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均
11,957	9	1,328

## 3. 共同研究・セミナー

事業の型 A 型							
①共同研究（適宜、行を加除すること。）			現在の年度に○を付けること→			○	
共同研究整理番号	共同研究課題名（和文）	日本側代表者氏名・所属・職名	1年目 実施年度に ○を付ける ↓	2年目 実施年度に ○を付ける ↓	3年目 実施年度に ○を付ける ↓	A型のみ	
			4年目 実施年度に○を 付ける↓	5年目 実施年度に○を 付ける↓			
R 1	発がん原因の解析を目的としたゲノム研究	小川 誠司・京都大学医学研究科・教授	○	○	○	○	○
R 2	ケモインフォマティクス	ブラウン ジョン エルズワース・京都大学 医学研究科・講師	○	○	○	○	○
R 3	遺伝薬理学的手法によるビッグデータの取得とその解析	武田 俊一・京都大学医学研究科・教授	○	○	○	○	○
R 4	診断および治療に必要な医療情報学	稻垣 暢也・京都大学医学研究科・教授	○	○	○	○	○
R 5	医療情報の管理・解析	稻垣 暢也・京都大学医学研究科・教授	○	○	○	○	○
共同研究の実施状況（当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引6-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）							
R1	共同研究R-1の日本側代表者がスウェーデン側のコーディネーターを2回、合計11日間訪問した。8月にスウェーデンの拠点機関の主要メンバー・若手研究者と日本人研究者5名とでリトリート形式のセミナー「KAW Conference on Normal & Malignant Hematopoiesis」を実施した。この共同研究は、骨髄異形成症候群の病態の解明・新規治療の開発に貢献する。共同研究R-1の日本側代表者は、国際学会で共同研究の成果を発表した（共同発表(1), (2)）。日本国側コーディネーターは、スペイン側のコーディネーターと共に、男性ホルモンの発癌機序（DNA切断活性）について論文発表した（学術雑誌(1)）。						
R2	共同研究R-2の日本側代表者は、8日間、スイス側のコーディネーターの研究室に滞在し、共同研究の成果の論文を準備した。この論文は、AIに基づく計算創薬において、AIによる予測の限界について定量的な根拠を抽出するコンピュータープログラムについて報告する。共同研究R-2の日本側代表者は院生を2ヶ月間、ドイツ側のコーディネーターの研究室に派遣した。共同研究R-2の日本側代表者はこの院生を筆頭著者として論文発表した（学術雑誌(5)）。これは、AIに基づく計算創薬の、新しい手法を開発するものである。						
R3	ミトコンドリアで機能するDNA修復酵素は全部細胞核でも機能するに対し、日本側コーディネーターはTOP1MT（ミトコンドリア特異的DNAトポイソメラーゼI）が唯一ミトコンドリアでのみ機能するDNA修復酵素であることを発見した。そして抗癌治療薬、シスプラチンの効果をTOP1MT欠損した細胞とマウスで解析する、シスプラチンによる、ミトコンドリアDNA毒性の効果をゲノムDNA毒性の効果と区別して解析できる実験系を立ち上げた。TOP1MTの機能を生化学的に解析する為に、米国側参加研究者（教授級）のラボに院生2名を合計2.5ヶ月派遣した。TOP1MTについてのビッグデータ解析を実施する為に、米国側のコーディネーターと米国で共同研究の打ち合わせを行った。この共同研究は、シスプラチンの腎毒性の作用機序解明と治療法開発とに貢献する。						
R4	日本側参加研究者（大学院生）2名は、それぞれ9日間と17日間、米国・協力機関の参加研究者（教授級）の研究室で、小胞体膜タンパク質MG23に関する共同研究を実施した。本研究により心筋におけるカルシウムイオン動態の分子機序が解明できる。日本側参加研究者（教授級）は、米国・協力機関の参加研究者（教授級）との共同研究の成果を発表した（学術雑誌(7),(8)）。日本側参加研究者（教授級）は、フランス・Eurocord-Hospital SaitLuis : H31/R1年度は、急性白血病に対する日欧の臍帯血移植のデータを統合し比較検討を行った初の共同研究をLeukemia誌に報告した（Kanda J, et al. Prognostic factors for adult single cord blood transplantation among European and Japanese populations: the Eurocord/ALWP-EBMT and JSHCT/JDCHCT collaborative study Leukemia 2019）（謝辞記載忘れ）。本研究は、白血病治療における臍帯血移植の手法確立に貢献する。						
R5	米国・協力機関と時空間データのためのプライバシ保護に関する共同研究を進め、学術雑誌(10)と論文（Yang Cao, Yonghui Xiao, Li Xiong, Liquan Bai, Masatoshi Yoshikawa: PriSTE: Protecting Spatiotemporal Event Privacy in Continuous Location-Based Services, PVLDB 12(12): 1866-1869 (2019)）の2報を発表した。この成果は、プライバシ保護とビッグデータの利用ユーザーの使いやすさを両立させるビッグデータ構築技術の改善に貢献する。						

②セミナー（当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。）				
セミナー	セミナー名（和文）	セミナー名（英文）	開催地（国名・都市名・会場）	開催期間（○年○月○日～○年○月○日（○日間））
S 1	日本学術振興会・研究拠点形成事業（先端拠点形成型）	Computational Chemogenomics and Chemical Biology : hands on realtime data retrieval and	ドイツ・ボン・ボン大学	2019年9月23日（1日間）
S 2	日本学術振興会・研究拠点形成事業（先端拠点形成型）	Breaking the genome during meiosis: an essential step for fertility	日本・京都市・京都大学	2019年4月22日（1日間）
セミナーの開催状況（当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数（総数、参加国名ごとの参加人数（本事業経費による負担の有無を問わない）、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引6-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）				
S1	参加者数（総数：28人（内 日本側3人、ドイツ側25人）） 共同研究で使用していたデータがやや古かったが、本セミナーの実施により最新の公開データを取得する方法が得られた。また、共同論文の状況を再確認し、論文を更新する方針を確定できた。論文を更新後、次年度に投稿予定である。 ネットワーク形成については、日本拠点の構成員は年に1~2回相手国に訪問して学術交流を行っている。 若手の育成等の効果としては、本セミナーでは多くの化学情報学を専門としている学生が積極的に実習に取り組み、医薬品の関連データ（毒性や特異性等）を同時に取得する情報スキルを身につけることができた。より最新かつ正確な医薬品関連データを論文に取り入れることにより論文の品質向上と高い評価を得る効果は期待できる。			
S2	参加者数（総数：15人（内 フランス側1人、日本側14人）） このセミナーによるDr. DE MASSYとの情報交換は、DNA切断機序の解明に貢献でき、今後の共同研究に非常に有用であることがわかった。 若手の育成等の効果としては、セミナー後にこの研究内容にかかわっている大学院生数名をDr. DE MASSYと個別にディスカッションを行わせ、若手研究者のスキルアップをはかることができた。			

(3)当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況 (セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2-7(7)参照のこと。)
該当なし
(4)該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとってのメリット (セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引4-4(1)①参照のこと。)
該当なし

## 4. 研究交流状況

事業の型 A 型							
①日本→海外の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除すること。）							
国名（派遣先） 第三国は、国名の後に（第三国）と記載すること。	教授級以上	助教・准教授等	ボスドク等 若手研究者	大学院生	手引2~4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1 米国	2	2		8		12	大学院生4
2 ドイツ				1		1	大学院生1
3 スイス		2				2	
4 スウェーデン	2					2	
5 スペイン				1		1	大学院生1
計	4	4	0	10	0	18	
第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引4~4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国）の参加研究者の場合は手引2~6記載の要件も満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
該当なし							
②海外→日本の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
国名（派遣元） 第三国は、国名の後に（第三国）と記載すること。	教授級以上	助教・准教授等	ボスドク等 若手研究者	大学院生	手引2~4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1 該当なし						0	
計	0	0	0	0	0	0	
第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引4~4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国）の参加研究者の場合は手引2~6記載の要件も満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
該当なし							
③日本以外→日本以外の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
国名（派遣元）	国名（派遣先）	教授級以上	助教・准教授等	ボスドク等 若手研究者	大学院生	手引2~4記載の 参加資格のない者・ その他	合計
1 該当なし							0
計		0	0	0	0	0	0
各渡航について、手引4~4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国）の参加研究者の場合は手引2~6記載の要件も満たす旨の事由説明（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
該当なし							
④海外→日本の渡航数（相手国側経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
国名（派遣元）	教授級以上	助教・准教授等	ボスドク等 若手研究者	大学院生	手引2~4記載の参加資格のない者・ その他	合計	
1 フランス	1						1
2 米国				1			1
計	1	0	0	1	0	0	2
⑤日本→海外の渡航数（相手国経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
国名（派遣先）	教授級以上	助教・准教授等	ボスドク等 若手研究者	大学院生	手引2~4記載の参加資格のない者・ その他	合計	
1 該当なし							0
計	0	0	0	0	0	0	0

## 5. 交流相手国

事業の型 A 型							
①相手国名（和文）	米国						
②拠点機関名（和文および英文）							
和文：国立衛生研究所／国立がん研究所 英文：National Institute of Health / National Cancer Institute							
③コーディネーター所 属部局・職名・氏名 (英文)	Laboratory of Molecular Pharmacology, Chief, Yves POMMIER						
④協力機関名（和文および英文）（行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
和文：ハーバード大学医学大学院 英文：Harvard Medical School							
和文：オハイオ州立大学 英文：Ohio State University							

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	3	0	1	0	0	4	
協力機関・協力研究者	19	4	3	1	0	27	
合計	22	4	4	1	0	31	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）							
所属・職名（専門分野）	研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）						
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由		
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：—	⑨相手国のマッチングファンド（=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費）（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）					※参考： 日本側研究交流経費 ¥12,600,000	
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート（外貨1単位に 相当する円貨額）	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	National Institutes of Health	NIH Yearly Budget		2020/4/6	米ドル	109.97
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	—						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	—						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	—						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	○		198				
(5)相手国側研究者の研究経費	◎		1,980				
(6)相手国開催のセミナー開催経費	—						
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）	—	合計	2,178				

\*日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

## 5. 交流相手国

事業の型 A 型						
①相手国名（和文）	ドイツ					
②拠点機関名（和文および英文）						
和文：ボン大学 英文：The University of Bonn						
③コーディネーター所 属部局・職名・氏名 (英文)	Life Science Informatics, Professor, Jurgen BAJORARH					
④協力機関名（和文および英文）（行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）						
該当なし						

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)							第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	1	0	1	0	0	2	
協力機関・協力研究者	3	0	0	0	0	3	
合計	4	0	1	0	0	5	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）							
所属・職名（専門分野）	研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）						
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由		
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：—	⑨相手国のマッチングファンド（=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費）（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）					※参考： 日本側研究交流経費 ¥12,600,000	
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1単位に 相当する円貨額)	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	Government of the North Rhine Westphalia	Improvement of Teaching		2020/4/6	ユーロ	119.28
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	—						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	—						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	—						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	—						
(5)相手国側研究者の研究経費	◎		1,002				
(6)相手国開催のセミナー開催経費	—						
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）	—	合計	1,002				

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません（EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います）。

## 5. 交流相手国

事業の型 A 型						
①相手国名（和文）	イタリア					
②拠点機関名（和文および英文）						
和文：分子腫瘍学財団研究所 英文：FIRC Institute of Molecular Oncology Foundation						
③コーディネーター所 属部局・職名・氏名 (英文)	Biosciences, Professor, Marco FOIANI					
④協力機関名（和文および英文）（行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）						
該当なし						

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)							第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	2	0	0	0	0	2	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	2	0	0	0	0	2	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）							
所属・職名（専門分野）	研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）						
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由		
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：—	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	※参考： 日本側研究交流経費 ¥12,600,000		
				換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート（外貨1単位に 相当する円貨額）
A型のみパターン種別 パターン1か2を記入すること	1	FIRC Institute of Molecular Oncology Foundation	IFOM ASIA	2020/4/6	ユーロ	119.28
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	—					
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	—					
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	—					
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	—					
(5)相手国側研究者の研究経費	◎		1,503			
(6)相手国開催のセミナー開催経費	—					
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）	—	合計	1,503			

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

## 5. 交流相手国

事業の型 A 型							
①相手国名（和文）	英國						
②拠点機関名（和文および英文）							
和文：MRC分子生物学研究所 英文：MRC, Laboratory of Molecular Biology							
③コーディネーター所 属部局・職名・氏名 (英文)	Division of Protein and Nucleic Acid Chemistry, Principle Investigator, Julian SALE						
④協力機関名（和文および英文）（行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
和文：サセックス大学 英文：University of Sussex							
和文：ケンブリッジ大学 英文：University of Cambridge							
和文：オックスフォード大学 英文：Oxford University							

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	1	0	1	0	0	2	
協力機関・協力研究者	7	0	1	0	0	8	
合計	8	0	2	0	0	10	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）							
所属・職名（専門分野）	研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）						
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由		
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：—	⑨相手国のマッチングファンド（=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費）（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）					※参考： 日本側研究交流経費 ¥12,600,000	
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート（外貨1単位に 相当する円貨額）	
A型のみバターン種別 バターン1か2を記入すること	1	MRC Laboratory of Molecular Biology	MRC Core Grant		2020/4/6	ポンド	137.48
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	—						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	—						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	—						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	—						
(5)相手国側研究者の研究経費	◎		1,004				
(6)相手国開催のセミナー開催経費	—						
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）	—	合計	1,004				

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

## 5. 交流相手国

事業の型 A 型						
①相手国名（和文）	カナダ					
②拠点機関名（和文および英文）						
和文：ブリティッシュコロンビア大学 英文：The University of British Columbia						
③コーディネーター所 属部局・職名・氏名 (英文)	Department of Cellular and Physiological Sciences, Professor, Timothy KIEFFER					
④協力機関名（和文および英文）（行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）						
和文：カルガリー大学 英文：The University of Calgary						

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	1	0	1	0	0	2	
協力機関・協力研究者	3	1	0	0	0	4	
合計	4	1	1	0	0	6	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）							
所属・職名（専門分野）	研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）						
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由		
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：—	⑨相手国のマッチングファンド（=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費）（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）					※参考： 日本側研究交流経費 ¥12,600,000	
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1単位に 相当する円貨額)	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	Canadian Institutes of Health Research	Canadian Institutes of Health Research Program		2020/4/6	カナダドル	78.30
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	—						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	—						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	—						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	—						
(5)相手国側研究者の研究経費	◎		1,018				
(6)相手国開催のセミナー開催経費	—						
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）	—	合計	1,018				

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません（EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います）。

## 5. 交流相手国

事業の型 A 型						
①相手国名（和文）	スイス					
②拠点機関名（和文および英文）						
和文：スイス連邦工科大学チューリッヒ校 英文：ETH Zurich						
③コーディネーター所 属部局・職名・氏名 (英文)	Department of Chemistry and Applied Biosciences, Professor, Gisbert SCHNEIDER					
④協力機関名（和文および英文）（行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）						
該当なし						

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)							第三国所属の研究者（内数）
教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計		
拠点機関	1	0	1	1	0	3	
協力機関・協力研究者	3	0	0	0	0	3	
合計	4	0	1	1	0	6	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）							
所属・職名（専門分野）		研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由		
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：—	⑨相手国のマッチングファンド（=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費）（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）					※参考： 日本側研究交流経費 ¥12,600,000	
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート（外貨1単位に 相当する円貨額）	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	Swiss National Federation	General Call for Advanced Research Proposals		2020/4/6	スイスフラン	112.41
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	—						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	○		300				
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	—						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	○		10				
(5)相手国側研究者の研究経費	◎		1,000				
(6)相手国開催のセミナー開催経費	—						
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）	—	合計	1,310				

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません（EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います）。

## 5. 交流相手国

事業の型 A 型						
①相手国名（和文）	フランス					
②拠点機関名（和文および英文）						
和文：国立科学研究センター人類遺伝学研究所 英文：Institute of Human Genetics, CNRS						
③コーディネーター所 属部局・職名・氏名 (英文)	Department of Genome Dynamics, Group Leader, Bernard DE MASSY					
④協力機関名（和文および英文） (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)						
該当なし						

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)							第三国所属の研究者（内数）	
教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計			
拠点機関	2	0	1	0	0	3		
協力機関・協力研究者	4	0	0	0	0	4		
合計	6	0	1	0	0	7		
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）								
所属・職名（専門分野）	研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）							
該当なし								
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）								
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由			
該当なし								

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：—	⑨相手国のマッチングファンド（=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費）（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）					※参考： 日本側研究交流経費 ¥12,600,000
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	CNRS	研究所から配分される研究資金	2020/4/6	ユーロ	119.28
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	—					
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	○		301			
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	○		30			
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	○		10			
(5)相手国側研究者の研究経費	◎		800			
(6)相手国開催のセミナー開催経費	—					
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）	—	合計	1,141			

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません（EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います）。

## 5. 交流相手国

事業の型 A 型						
①相手国名（和文）	スウェーデン					
②拠点機関名（和文および英文）						
和文：カロリンスカ研究所 英文：Karolinska Institute						
③コーディネーター所 属部局・職名・氏名 (英文)	Hematology, Professor, Eva Hellstrom LINDBERG					
④協力機関名（和文および英文）（行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）						
該当なし						

第三国所属の研究者（内数）						
⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計
拠点機関	2	0	0	0	0	2
協力機関・協力研究者	1	0	0	0	0	1
合計	3	0	0	0	0	3
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）						
所属・職名（専門分野）	研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）					
該当なし						
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）						
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット		研究交流に不可欠な理由		
該当なし						

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：—	⑨相手国のマッチングファンド（=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費）（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）					※参考： 日本側研究交流経費 ¥12,600,000	
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1単位に 相当する円貨額)	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	Wallenberg Grant	Characterization, Surveillance and Targeting of Cancer Stem Cells		2020/4/6	スウェーデンクローナ	11.12
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	○		500				
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	—						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	—						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	—						
(5)相手国側研究者の研究経費	◎		1,501				
(6)相手国開催のセミナー開催経費	—						
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）	—	合計	2,001				

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

## 5. 交流相手国

事業の型 A 型						
①相手国名（和文）	スペイン					
②拠点機関名（和文および英文）						
和文：アンダルシア分子生物学・再生医学センター 英文：Centro Andaluz de Biología Molecular & Medicina Regenerativa (CABIMER)						
③コーディネーター所 属部局・職名・氏名 (英文)	Genome Biology, Group Leader, Felipe Cortes LEDESMA					
④協力機関名（和文および英文）（行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）						
該当なし						

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)							第三国所属の研究者（内数）	
拠点機関	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計		
協力機関・協力研究者	1	0	0	0	2	3		
合計	1	0	0	0	2	3		
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）								
所属・職名（専門分野）	研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）							
CABIMER, Genome Biology, Technician (DNA Damage Response)								
CABIMER, Genome Biology, Technician (DNA Damage Response)								
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）								
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由			
該当なし								

⑧相手国側の経費負担		⑨相手国のマッチングファンド（=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費）（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）				※参考： 日本側研究交流経費		¥12,600,000
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1単位に 相当する円貨額)	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	Spanish Government	Programa Estatal de I+D+I Orientada a Retos de la		2020/4/6	ユーロ	119.28	
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	—							
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	—							
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	—							
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	—							
(5)相手国側研究者の研究経費	◎			800				
(6)相手国開催のセミナー開催経費	—							
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）	—	合計		800				

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国側のマッチングファンドとすることもできません（EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います）。